

平成30年度事業報告書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー

1. 事業の成果

インドネシアにおけるウミガメ保全事業を継続させ、事業の拡充を行った。現地 NGO である「インドネシアウミガメ研究センター」をカウンターパートとして、ジャワ海の5カ所の島において卵買上げや島借上げの手法を用いたタイマイとアオウミガメ卵の保全事業を展開した。昨年から継続して保全活動地以外のタイマイ生息状況調査をおこない、ジャワ海の主要な産卵地の資源動向把握を達成した。西パプア州では地域住民と協働でオサガメのモニタリング調査を実施した。ジェン・ウォモン地区のワルマメディ海岸では、昨年度に引き続きふ化後調査、生体磁石調査などを行った。モニタリング調査を継続し、オサガメの減少要因を究明した。ジェン・シュアツ地区の海岸では、監視員にモニタリング調査を依頼し、個体群動態を把握するため産卵巣数の計数を行った。

日本国内の事業として、東京都小笠原村父島の「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」の運営管理を小笠原村より受託し、従来通りのウミガメ調査を行った。ザトウクジラ調査に関しては、鳴音をテーマとする卒論生を受け入れて鳴音調査に実施した。その他、企業協働によるサンゴ藻の発生基礎実験など、海洋生物の調査研究及び保全事業を遂行した。また、展示施設を利用した教育プログラムも継続して行い、小笠原小学校5年生の総合学習事業も継続した。関東沿岸のウミガメ漂着（ストランディング）調査に関しては、行政や関係機関、各地団体や個人と協力して実施した。また、各教育機関での講演の他、各種イベントやシンポジウムへの出展や調査結果のサイト公表を行った。「アクションミーティング2018」を開催し、一般の人に対して情報提供や啓発を行った。ウミガメジョイントブリーディング（小学校や水族館での子ガメ短期育成および子ガメ飼育体験プログラム）を計4組織で実施した。各種イベントに参加して活動報告紹介や広報活動を行ったほか、オリジナルグッズの物品販売事業やフェアトレードを実施した。

2. 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する事業【支出額:39,840千円】

ア. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】ジャワ海西部の5つの島（セガマ・ブサール島、プスムット島、モンペラン島、キマル島、ブナンブン島）では、卵買上げや島借上げ手法を用いたウミガメ卵の実質的な保護の継続を行い、タイマイ 3,680 巣(505,264 卵、2018 年 1-12 月)、アオウミガメを 324 巣(26,568 卵、2018 年 1-12 月)保全することができた。昨年に引き続き保護活動地以外のタイマイ生息状況調査もおこなった（10 地域 37 島）。産卵海岸の踏査と聞き込みにより、産卵規模と絶滅危惧要因の把握をした。西パプア州のジェン・ウォモン地区のワルマメディ海岸では、今年度 6 月に海岸所有者と交渉し、原則として夜間産卵パトロールや移植を禁止する海岸使用の契約を締結したが、海岸所有者の契約不履行により完全な禁止までには至らなかった。また、これまでオサガメ産卵巣だけを対象としていた番号札設置（位置マーキング）をアオウミガメやヒメウミガメなどすべてのウミガメの産卵巣にも拡大した結果、ワルマメディ海岸で 381 巣の産卵巣を確認した。ワルマメディ海岸ではパプア大学が実施した夜間産卵パトロールにより 300 巣以上に匹敵する産卵メスガメが別の海岸（ジェン・シュアツ海岸）に移動したことが判明し、人間の夜間活動がウミガメ産卵行動に与える影響が深刻であることが改めて示唆された。ジェン・シュアツ

プ海岸では、モニタリング調査のみを実施し、786巣(11月と12月を除く)の産卵巣を確認した。

- 地球環境日本基金助成 (一部)
- 国際資源評価等推進補助事業 (一部)

【日時】平成30年4月1日から平成31年3月31日

【場所】ジャワ海全域 (セガマ・ブサル島、プスムット島、モンペラン島、キマル島、プナンブン島など)、西パプア州 (ジェン・ウォモン地区、ジェン・シュアツプ地区)

【従事者人員】5人

【対象】ジャワ海地域の住民 (50~80名)、海洋漁業省ソロン支局、タンブロウ政府、西パプア州地区住民 (1,000人)

イ. 小笠原諸島におけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】小笠原諸島においてアオウミガメの産卵巣モニタリング調査及び標識放流調査、ふ化後調査、人工ふ化放流、短期育成を実施した。父島市街地に隣接する大村海岸では産卵時期に合わせてパトロールを行い、帰海できなくなった産卵メスガメや入海できないふ化稚ガメの保護も行った。食用捕獲されたメスガメの体内から採取された体内卵のふ化事業を実施した。外部研究者と共同研究を積極的に行い、卒論生3名、修論生2名の受け入れ、小笠原の事業内容が大きく向上した。

- 小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業 (一部)
- 沖縄美ら海財団助成 (一部)

【日時】平成30年4月1日から平成31年3月31日

【場所】小笠原諸島

【従事者人数】7人

【対象】島民 (約2,700人)、一般(不特定多数)

ウ. 日本沿岸におけるウミガメ生息・漂着調査事業

【内容】関東沿岸 (茨城県、千葉県、神奈川県) のウミガメ漂着 (ストランディング) 調査および定置網におけるウミガメ混獲調査を実施した。関東沿岸域のほか宮城県からもウミガメ漂着情報を収集した。帯広畜産大学家畜病理学教室の協力により、混獲個体および漂着個体の一部で病理診断を実施した。定置網で混獲され生存していた2個体に対して、東京大学大気海洋研究所と共同で衛星発信機を装着し、海洋での移動を追跡した。ウミガメ死亡漂着場所の位置情報をマッピングサイトで公開し (<https://kamest.elna.or.jp/>)、情報発信を行った。

【日時】平成30年4月1日から平成31年3月31日

【場所】茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、宮城県

【従事者人員】4人

【対象】各地団体及び個人 (サーファー、カヤッカー等)、行政関係者、漁業関係者など約200人

エ. 小笠原諸島におけるザトウクジラ調査事業

【内容】ザトウクジラの鳴音をテーマとする卒論生を受け入れて鳴音調査を実施したほか、北太平洋のザトウクジラとフィリピンに來遊するザトウクジラの関連性を調査するために、小笠原の過去のID写真とマッチングし、NOAA (アメリカ海洋大気庁) が執筆する論文に協力した。

【日時】平成30年4月1日から平成31年3月31日

【場所】東京都小笠原村父島

【従事者人員】 3人

【対象】 島民（約 2,700 人）

オ. サンゴ調査事業

【内容】 動物サンゴの着床時に必要となるバイオフィルムの役目を果たすサンゴ藻に関して、父島二見湾付近での生息状況を調査するために小笠原海洋センター水槽内でサンゴ藻定着試験を実施した。また、関係者や研究者と今後の方針など協議を行った。

【日時】 平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日

【場所】 東京都小笠原村父島

【従事者人員】 5人

【対象】 島民（約 2,700 人）

② 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する人材の育成事業【支出額:3,807 千円】

ア. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全に関する人材育成事業

【内容】 インドネシア現地カウンターパートである「インドネシアウミガメ研究センター」のスタッフや各保護事業実施地域の監視員に対して調査技術の指導を行った。

【日時】 平成 30 年 4-12 月、平成 31 年 2-3 月

【場所】 ジャワ海全域（セガマ・ブサル島、プスムット島、モンペラン島、キマル島、プナンブン島、スルマル島など）、西パプア州（ジェン・ウォモン地区、ジェン・シュアアップ地区）

【従事者人員】 3人

【対象】 ジャワ海西部の地域住民（30～50 名）、西パプア州のオサガメ監視員及び地域住民（20 人）

イ. ボランティア、インターン及び研修生の受け入れ及び指導事業

【内容】 海洋生物の調査や保全に関して興味がある人々を一般から広く受け入れ、知見を広める場を提供するほか、海洋生物をテーマに研究を行う学生に対してサポートを行った。

【日時】 平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日

【場所】 東京都小笠原村父島、神奈川県横浜市

【従事者人員】 10人

【対象】 一般

③ 海洋生物及び自然環境に関する情報提供、普及啓発の事業【支出額:10,153 千円】

ア. 小笠原村屏風谷施設の運営管理事業

【内容】 小笠原村より運営管理を委託された「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」を利用し、海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を島民や来島者に対して行う。

● 小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業（一部）

● 小笠原海洋センター運営業務受託事業（一部）

【日時】 平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日

【場所】 東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】 7人

【対象】 島民及び来島者

イ. 教育啓発・エコツーリズム事業

【内容】小笠原小学校の生徒に対して週1回の総合学習を通しウミガメに関する教育・啓発を行うほか、島民や来島者に対して海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を行った。海洋生物保全と地域経済活性化の両立させることを目的にエコツーリズム基盤を構築した。

【日時】平成30年4月1日～平成31年3月31日

【場所】東京都小笠原村父島

【従事者人員】6人

【対象】一般

ウ. ウミガメジョイントブリーディング（子ガメ短期育成および飼育体験学習）

【内容】前年より参加継続のヨコハマおもしろ水族館、さとえ学園小学校、学校法人シモゾノ学園（国際動物専門学校）の3組織のほか、今年度は高齢者介護施設であるエリシオン沼津（ランブラス・キャピタル株式会社）が新たに参加し、計4組織にて子ガメ短期育成と飼育体験を通じた教育・啓発活動を実施した。学校法人シモゾノ学園（国際動物専門学校）では、学生に対して、子ガメに短期育成に関連したウミガメ講演を行ったほか、ヨコハマおもしろ水族館が開催した一般来館者向けへのイベントにて講演を行った。

【日時】平成30年4月1日から平成31年3月31日

【場所】埼玉県、神奈川県、東京都、静岡県

【従事者人員】9人

【対象】小学生1,000人、専門学校生500人、一般

エ. WEBサイトによる情報発信事業

【内容】エバーラスティング・ネイチャーの活動理念や目的、インドネシアや国内での活動成果を一般に広く公開するために、ホームページにおいて情報の発信を行った。Facebookやtwitter、メールマガジンと連携して広報をおこなった。新しいSNSツールとしてInstagramを開始した。

【日時】平成30年4月1日から平成31年3月31日

【場所】神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）、東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】11人

【対象】一般

オ. イベント開催・講演会・学会などに関連する事業

【内容】ウミガメに関するイベント開催や環境関連の各種イベント出展のほか、講演会を主催し、活動の紹介や海洋生物の普及啓発を行った。また、各種の講演会や学会、検討会に出席・発表し、専門誌「海洋と生物」への寄稿を行った。ハワイ系のイベントや学園祭に初めて出店をした。国際会議では口頭発表を行った。チームラボ主催のワークショップに監修として携わり、支援グッズの販売もおこなった。

【日時】平成30年4月（カメベン）、7月（カメベン）、9月（グローバルフェスタジャパン）、平成31年1月（アクションミーティング、東京海洋大学うみがめ研究会ゼミ、CNAC全国フォーラム講演）、2月（国際ウミガメ会議、チームラボ）、3月（国際資源評価事業混獲生物サブユニット推進検討会、2018年度小笠原ウミガメ報告会、ピースボート講演）。

「海洋と生物」への寄稿：通年

【場所】東京都、神奈川県、埼玉県、Charleston, USA

【従事者人員】 11 人

【対象】 一般

(2) その他の事業

① 物品販売【支出額:4,240 千円】

【内容】「小笠原村屏風谷施設（小笠原海洋センター）」の展示館や「ELNA ショップ（エバーラスティング・ネイチャーの WEB サイトでのネット販売）」、各種イベントにおいて物品の販売を行った。広報の一助を担う ELNA カレンダーを今年も販売し好評を得た。今年新しく 9 名のアーティストにオリジナルグッズ作りの協力を得て、多彩なグッズ開発・販売をすることができた。インドネシアのウミガメ保全事業地住民が製作した民芸品などのフェアトレードも実施した。

【日時】平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日

イベント出展: 4 月 (海の・・・展)、5 月 (亀の日フェスタ)、8 月 (広尾ハワイアンウィーク)、9 月 (越谷レイクタウン アウトレットハワイホリデイズ)、11 月 (海鷹マルシェ、カメ DE Show)

【場所】東京都小笠原村（小笠原海洋センター）、神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）、インドネシア

【従事者人員】 20 人

【対象】 会員及び一般消費者

② 陸域における野生生物及び自然環境の調査研究に関する事業【支出額:18 千円】

【内容】父島の自然河川等で捕獲された外来種の淡水ガメを小笠原の生態系から隔離することを目的とし、村民が捕獲して小笠原海洋センターに持ち込んだ個体を専用池にて飼育した。

【日時】平成 30 年 10 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日

【場所】東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】 5 人

【対象】 一般

③ 野生生物及び自然環境の利活用による社会問題解決に資する事業【支出額:18 千円】

【内容】ウミガメ飼育が及ぼすアニマルセラピー効果を実証するため、高齢者介護施設での試験開始に向け研究者や関係者と協議を行った。

【日時】平成 30 年 10 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日

【場所】神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）

【従事者人員】 2 人

【対象】 一般